

# 開智小学校(総合部)を目指されるお父様、お母様へ

## 開智小学校(総合部)入試の傾向と対策 - 合格のポイント

名門小学・中学受験 ウェルストリーム  
代表 井澤 亨

### 受験者レベルが年々上昇しています！

開智の特色ある教育が評価され、根強い人気があります。「私立小学校に入れたいのではなく、開智に入れたい。」—そうおっしゃる御父母様が増えてきています。「どうしても開智に入れたい。」という人が増えてきて、年々受験者全体のレベルも上がっています。事実「受験塾(幼児教室)にまったく通っていない受験生」はほとんどいなかったとのことです。つまり、きちんと準備をしておかないと合格するのが難しくなっているのです。

### 傾向分析と対策

#### 特色ある入試制度

開智では平成22年度4月入学の生徒募集から入試制度の大改革をするようです。詳細は開智学園からの正式発表を待たなければなりません。どうやら従来10月、11月と2回あった入学試験を10月だけの1回にするようです。都区内の伝統校と同様にチャンスが1回だけになるとすれば、10月入試で必ずや実力を発揮する必要があります。「入試各科目の得点を偏差値換算し、まず合計偏差値の上位約70%までに生徒を絞った上で、科目別に特に秀でた生徒(上位約10番以内?)および総合点の上位者から合格させていく。」という制度は維持する方向のようです。

#### (1) 行動観察

**傾向**—生徒達を「素」にかえて判断！

平成19年10月—いろいろな大きさの段ボールを積み上げて、みんなで家をつくりましょう。

平成20年10月—スポンジや箱やいろいろな物がおいてあり、それらをつかってみんなで動物をつくりましょう。

**対策**—「素」にかえったとき、初めて会ったお友達と仲良く遊べ、先生の指示(お約束)を理解してその通りに行動できるかが試されています。「素」にかえられるということは「素」にかえても問題がないよう、日頃のお友達との接し方や行動自体を「あるべき姿」にすることが大切です。私たちウェルストリームでは知識の詰め込みではなく、お子様の精神年齢上げ、知的に成長させています。

#### (2) 作業

**傾向**—条件絵画、ちぎり絵、はさみ切りと貼り絵等が出題されています。「発想の豊かさやユニークさ」そして「豊かな色彩感覚等」、「作業の丁寧さ・緻密さ」が評価されます。

平成19年10月—「モールや毛糸を画用紙にテープではり、おうちをつくりましょう。」

平成20年10月—「紙コップと折り紙をつかい花瓶をつくりましょう。」

**対策**—日頃からクーピーをつかって自由にお絵かきしたり、いろいろなものをつかって工作する習慣を身につけることが大前提です。そして、お子様の作品の良いところをほめ、お絵かきや工作で自己表現することが楽しみとなるようにもっていきます。(強所伸展法) 私たちウェルストリームではこの積み重ねにより「発想の豊かさやユニークさ」、「豊かな色彩感覚」を育成しています。また、毎週の造形指導では制作作品を通して「描く」「塗る」「切る」「貼る」の練習を繰り返し、巧緻性を高めています。

#### (3) ペーパー試験

**傾向**—中学受験(一貫部)の算数で良問出題で定評ある開智ですので総合部でもすばらしい良問が出題されています。基礎的な知識・常識を問う「ペーパーA」と空間認識など

用力・思考力を問う「ペーパーB」に分かれており、他校に類のない特色ある問題が出題されています。過去の出題例として「たけひごとカラーボールで正四面体状にくみ上げた立体（元素模型風）」や「表面を8分割し、8色で塗り分けたボール」や「マッチ棒を正四面体状の立体にくみ上げたもの」のモデルが机上においてあり、ペーパーの絵とモデルの両方をみて、モデルと同じ絵を短時間で探す問題です。

平成20年10月は「4色に塗り分けた正四面体のモデルを2個組み合わせ、ペーパーの絵の中で作れるものに○をつける。」という画期的な問題が出題されました。

尚、平成19年10月から従来の傾向に加えて国語力重視となり、語彙の問題が大量に出題されました。しかも、それぞれの問題の試験時間が短いので即答力が試されています。これは平成20年にも出題されており、今後もこの傾向が続くと思われます。

**対策**—立体をいろいろな角度からみて、どう見えるか、実際に体験させます。そして、似たものとの見分け方のポイントを教えるのです。このような思考力重視の傾向に対しては、「基礎的な知識を身につけそれをベースとしてじっくりと考えぬく習慣」を身につけることが大切です。語彙の問題はそもそもお子様が言葉を知らないと言葉が立ちません。家庭内のコミュニケーションを深め、その中で語彙を自然に身につけさせることが肝要です。

#### (4) 個別面接（生徒本人面談）

**傾向**—なにか材料を与え、その場で考えさせ、話をさせる。その答えのユニークさよりもそう答えた理由説明がポイントであったと思います。発想の豊かさや自己表現能力（筋道立てて自分の考えを説明できる力）も問われています。

平成19年10月—公園と遊具の模型があり、遊具の模型を配置して自分が好きな公園を先生の目前で作り、質問に答える。公園を作らせるのは質問のきっかけ作り？

平成20年10月—図鑑が机の上に数冊おいてあり、好きな図鑑を選ばせ、それを本人にばつと開かせて、その開いてページにのっているものについて、「何でもいいから話をして下さい。」という口頭試験でした。想定問答集を暗記して練習しても全く意味がない。—という素晴らしい面接試験です。お子様の「人間力」が問われているからです。

**対策**—自分がどう思ったか、考えたかを相手にわかりやすく話す習慣をつけると良いと思います。私たちウエルストリームでは日頃のお子様の行動習慣、生活習慣から指導しています。

#### (5) 運動

平成18年秋より新たに「運動」が加わりました。

平成19年10月、県内私立小では珍しい「縄跳び」を実施しました。他には前まわり(マツトで前転)、アザラシ歩きなど実施しました。

平成20年10月、「縄跳び」は出題されませんでした。11月では復活しました。これらの練習は当然必要ですが、指示をしっかりと聞き、理解することと待っている間の姿勢その他も当然評価対象になります。

### まとめ

結局、開智はペーパー試験の知識・技術を磨くだけでは合格は困難です。ベースとなる知識に加えて、思考力・自己表現能力があり、「6歳なりの精神年齢がある子」が確実に合格しているのです。

本稿に対するお問い合わせは下記までお願い致します。

〒331-0815

さいたま市北区大成町4-126-1-101  
TEL 048-651-6811

ウエルストリーム

検索



<http://www.wellstream.co.jp>